

オオカワリギンチャク

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館



変わった特徴を持つオオカワリギンチャク(水槽番号302)



輪切りにしたオオカワリギンチャク

和歌山市から串本町にかけて59種のイソギンチャク類が生息している。この数は日本で知られるイソギンチャク類の半数に相当する多さだ。白浜水族館では、やや

深みに生息する鮮やかなレモン色したオオカワリギンチャクが飼育展示されている。オオカワリギンチャクは日本固有種で、白浜とその周辺海域を含む限られた海域でし

か発見されておらず、他の水族館ではほとんど飼育されていない。

普通イソギンチャクは岩から無理やり引きはがそうとすると、根元のところまでぎゅぐゅちぎ

たぐ発達していないためだ。これもその変わった特徴の一つである。

手の数と同じ隔膜を作り上げ、体内

変わった特徴多く持つ

での消化効率を良くすることもある。

体を輪切りにするときに、外敵から身を守るために隔膜を収縮させて体を丸めるのに使う。白浜水族館では、さまざまなカワリギンチャク類が同居する水槽を、生息地に合わせて水温15度に調整している。このため、冷水性で北日本産のヒタベリイソギンチャクなどと一緒には飼育できないのである。(京都大学准教授)

カワリギンチャクの名前の由来は、他のイソギンチャク類と違う特徴を多く持ったためである。

普通のイソギンチャク

カワリギンチャクの名前の由来は、他のイソギンチャク類と違う特徴を多く持ったためである。

カワリギンチャクの名前の由来は、他のイソギンチャク類と違う特徴を多く持ったためである。

にある四対の隔膜の内側にだけ次々と新しい隔膜を増設しながら成長する。このような増やし方は、他のイソギンチャク類に見られない。カワリギンチャクの仲間を内腔(ないこう)類という独特の分類群にまとめる由縁である。最終的には触手の数と同じ隔膜を作り